

平成年 21 年度 第 1 回鎌ヶ谷市文化財審議会会議録

1. 開催日時 平成 21 年 6 月 3 日（水曜日）16 時 00 分～17 時 15 分

2. 開催場所 市役所 3 階 301 会議室

3. 出席者

(1) 委員：下津谷委員・新山委員・小川委員・佐藤委員・石神委員

(2) 市側：川西教育長、長井部長、松永文化スポーツ振興課長・犬塚副主幹・三石・後野

4. 委嘱状交付

5. 開会

6. 正副委員長選出

7. 委員長あいさつ

8. 副委員長あいさつ

～教育長所用により退席～

9. 議題等

会議録署名人を小川委員に指名。

【報告事項】

(1) 平成 20 年度文化財保護主要事業について

事務局より資料に沿って報告

質疑なし

(2) 平成 21 年度文化財保護主要事業について

事務局より資料に沿って報告

質疑なし

委員：国史跡について今後の整備計画もあると思うが、見学に備えて暫定の足元整備や見学路の設定はできないか。人が歩くことによって土手が崩れるおそれがある。また歩く足元が危ないこともある。このあたりの対策はあるのか。また団体見学に備えてバス等が置けるスペースなどはあるのか。

事務局：整備事業については市の実施計画にも位置づけるつもりであったが、財政状況から具体的見通しがつかない状態である。当面は草刈等の環境整備や周知普及に重点を置いていくこととなった。

見学の件ですが、大勢で土手に上るのは史跡の保護の上から良くないので、払込にはロープを張って土手に上らないように対策している。また溜込の南側から払込を俯瞰するために土手に上る箇所には土のうを設置し、上ってもらうようにしている。見学は国道側からだと私有地に入ることになるので、市で行う見学は基本的に貝柄山公園の野馬の像の前から南側に面した市道から史跡に入るようにしている。

バスは貝柄山公園の駐車場を使うこともできるが、大型バスは厳しいようである。目的地のそばに駐車場も設置することもあるが、考え方として市役所から歩いて市内を散策しながら来てもらうという方法もあると策定委員会ではご意見いただいている。現実的には史跡近隣に新たに駐車場を用意するのは難しい。

委員：その場合、歩くルートにも工夫いただきたい。捕込と役所間の所要時間は？

事務局：10 分くらいである。市役所駐車場は土、日は開放している。

委員長：史跡の周知普及実行委員会の構成員は公募するのか。

事務局：市で把握している関係団体、機関など事業の趣旨に賛同していただいた方を構成員とする予定である。

委員長：各団体、個人を一本化しようとするものか。

事務局：そうである。

(3) 国史跡下総小金中野牧跡保存管理計画書の刊行について

事務局より資料に沿って配布状況を報告。

質疑なし

(4) 国史跡下総小金中野牧跡の周知及び活用したまちおこし事業の結果について

事務局より資料に沿って報告。

合わせて地域活性化プロジェクト及び地域活性化推進チームの史跡の活用案の一部について報告。

委員長：地域活性化推進チームは庁内横断的なものなのか。

事務局：このプロジェクトは昨年度企画担当課が中心になって立ち上げたものである。これまでプロジェクトチームは一定の課題解決に向けて組まれるものであったが、これは若い職員が中心となって、自由な発想から鎌ケ谷の資源の活用などについて話し合う柔軟なプロジェクトである。その案が昨年10月に報告書という形でまとめられ、その中の資源の一つとして下総小金中野牧跡が挙げられている。それを受けて発足した推進チームは、その中からできることを抽出、実行するためのものであり、できることは何かということを経営で詰めている。その中で史跡は文化財部署が担当ではあるが、鎌ケ谷市の財産として全庁的に取り組もうというものである。4月のイベントについても企画やこのプロジェクトに係る職員も参加している。

委員長：文化財を活用しながらのまちおこしは大変良いことだと思う。

委員：観光協会、商工会などとの連携はどうなっているのか。例えばまち歩きなどになると、トイレ等の問題があり、商工会や商店街の協力は不可欠だと思うが。

事務局：議会などでもいろいろな資源を活用して市外から人が来てもらえるようなまちづくりができないかとの指摘もある。なし等の観光農業組合はあるが、一般的な観光という意味での観光協会的なものはない。

これまでも鎌ケ谷大仏にスポットがあたったり単発なものは散見はするが、トータルに観光に結びつくような形になっていない。国史跡についてもせっかくなのだから、国史跡をキーワードにした観光スポットにできないものかという意見もあるが、これ一つをもって観光スポットとして、商業ベースに乗せるのは難しい。しかし、4月のイベントについても市外からの参加者もある、少しずつではあるが効果を期待しながら続けていくことが大事ではないかと考えている。

また、市内のNPO団体などやJRA競馬学校の協力の元に行っており、続けていけば年を追うごとに充実していくものと思う。

委員：見所があれば、遠くからでも人は来るので、イベントも根付けば人を呼ぶことができる。続けることが大事だと思う。

事務局：行政だけでは発想の限界もあり、NPO団体などの知恵を借りながら、事業を実施していきたい。

委員長：まちおこしは将来の大きな課題でもある。団体などとともに文化財を利用してより良い方向にいて頂ければと思う。

事務局：4月のイベントでは中心となった NPO 団体の発案で収益を史跡の保全活動に還元していくシステムを目指しており、イベント参加の協力金やばふん饅頭の売り上げの収益還元による史跡ゴミ拾いを6月7日に行う。ボランティアの募集を広報などで呼びかけ、おにぎり、お茶などを提供しようというものである。

委員：それはいいことだと思う。

事務局：4月のイベントはこの収益還元のゴミ拾いまでを1つの事業として考えている。

委員長：国史跡下総小金中野牧跡の周知及び活用したまちおこし事業の結果については以上でよろしいか。

(4) その他

委員：これまで野馬土手の(開発に伴う)発掘調査をしてきていると思うが、その都度、地点の報告になっているので、長い目で見た希望として、そうした成果について一堂にしてみてもらいたいと思っている。

事務局：その一端として「保存管理計画書」の中でもそれぞれ野馬土手の性格については述べており、また平成19年度の郷土資料館の企画展でもこれまでわかってきた成果について展示を行っているところである。

最後に報告として、県の事業で「文化財探検隊」が9月に鎌ヶ谷で実施される。鎌ヶ谷大仏駅周辺の文化財と捕込、郷土資料館の見学を予定している。詳細は後日、県が広報等で周知する予定である。

委員長：では、以上でよろしいでしょうか。会議を終わります。

【会議終了】

以上会議の経過を記載し、間違いがないことを証するため、次に署名する。

平成21年 6 月18日

署名人 小川 浩 ㊟